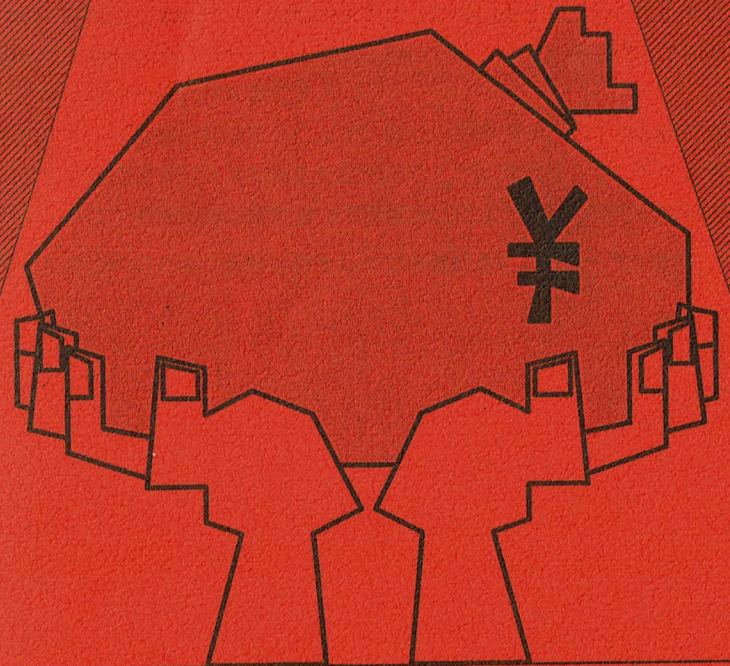


ささげる恵み  
*The Grace of the Giving*



## まえがき

このブックレットには献金についての講演と三回分の聖研テキストが収められています。前半の文章は、ジョン・ストットが管理する者としての働きについて講演したことから作られた「The Grace of Giving (ささげる恵み)」という小冊子の翻訳です。これにKGKで作成した三回の聖書研究テキストを加えました。いずれも第二コリントの手紙8～9章を取り扱っています。

献金には、地元の教会への献金、KGKへの献金、世界宣教への献金、困っている友人への援助等、様々な送り先があります。皆さんは何にどれくらい捧げるかについて、どうやって決めているでしょうか。どのような趣旨で捧げているでしょうか。

クリスチャンにとって、全ての献金は特別な意味を持っています。献金は神様の栄光が表されるためであり、献金することは捧げる人にとって祝福です。収入や状況の変化によって、何をどれくらい捧げるかということについて現実的に悩むという経験が人生の中にはあるでしょう。この学びを通して、自分たちに与えられた賜物の用い方について目的を持って考えることを手助けできれば本望です。

またグループ聖書研究をすることで、新しい気付きや、個人の経験に基づいた具体的なアドバイスを私たちは得ることが出来ます。コリントの教会がマケドニアの諸教会の証によって励まされたように、あなたも聖書を中心とした交わりの中で豊かなチャレンジを受けることを願っています。

# ささげる恵み

*The Grace of the Giving*

## 10の原則

- 第二コリント8～9章 -

ジョン ストット著

### 序論

- 1 献金は神の恵みの表れである
- 2 献金は霊的賜物（みたまの賜物）である
- 3 献金はキリストの十字架によってもたらされるものである
- 4 献金はその人の持ち分に應じてなされるものである
- 5 献金は平等をもたらすものである
- 6 献金は慎重に管理されるべきである
- 7 献金は小さな思いやりのある競い合いによって励まされる
- 8 収穫に見られる献金に対する考え方
- 9 献金における象徴的な意味
- 10 献金は神への感謝をもたらす

### 結論

## 序論

*Introduction*

クリスチャンにとって、捧げることは新しい原動力になります。聖霊の命が私たちの内に居てくださることの実として、惜しみなく、喜びを持って捧げることに召されているのです。この冊子は、使徒パウロによる献金に関する教えから学び、私たちの置かれた環境に適用できる法則を提示しています。

私自身がそうであったように、この学びが役に立ち、気づきの多い学びとなることを信じています。

第二コリント8章9章では、パウロはギリシャのアカヤ教会、マケドニア教会がユダヤの貧しい教会に捧げる献金の備えについて説明しています。ローマ15章と第一コリント16章にも記されています。パウロは献金について、日常のありふれた事柄、あるいは、教会生活の外にある事柄とは考えませんでした。反対に、献金はキリストの教会の一員としての中心的な事柄であることと見えています。

パウロは、普段の献金がいかに福音の三つのテーマ：神の恵み、キリストの十字架、聖霊の一致、に根ざしているかを教えています。この奥深い三位一体を信じる神学と実践的な良識の組み合わせを知ることは非常に感動的です。

パウロの10つの原則を見ていきましょう。

# 1

## 献金は神の恵みの表れである

*Christian giving is an expression of the grace of God*

「さて、兄弟たち。私たちは、マケドニアの諸教会に与えられた神の恵みを、あなたがたに知らせようと思います。苦しみゆえの激しい試練の中にあっても、彼らの満ちあふれる喜びは、その極度の貧しさにもかかわらず、あふれ出て、その惜しみなく施す富となったのです。私はあかしします。彼らは自ら進んで、力に應じ、いや力以上にささげ、聖徒たちをささえる交わりの恵みにあずかりたいと、熱心に私たちに願ったのです。そして、私たちの期待以上に、神のみこころに従って、まず自分自身を主にささげ、また、私たちにもゆだねてくれました。それで私たちは、テトスがすでにこの恵みのわざをあなたがたの間で始めていたのですから、それを完了させるように彼に勧めたのです。」 8:1~6

パウロは、北方ギリシャにあるマケドニアの諸教会の寛大さについて言及することからではなく、“マケドニアの諸教会に与えられた神の恵み”ということからこの手紙を書き始めています。「恵み」とは「寛大」という言葉の別の表現です。つまり、マケドニア諸教会の寛大さの背後に、神の寛大さをパウロは見たのです。

恵み深い神は、寛大な神であり、信徒たちも寛大になるよう願っておられます。

3人の貢を納める人々がマケドニア川にきました。“苦しみゆえの激しい試練の中にあっても、彼らの満ちあふれる喜びは、その極度の貧しさにもかかわらず、あふれ出て、その惜しみなく施す富となったのです。”(2節)。結果的には、自分たちの許容を超えるほどに捧げたのです(3節)。そして、それを特権として喜んでいきます(4節)。現代、私たちを取り巻く不自由の無い西洋文化は、どれほど簡単に、他人の必要に対する思いやりを失わせていることでしょうか。当時、マケドニアの人々は、そのような快適さ、個人的な満足

感といった魅力もなかったのです。彼らが価値を置くところは、まったく異なっていました。まず、神に自分を明け渡し、その次に、パウロとその弟子たちに捧げたのです(5節)。コリント教会の人々たち、そして私たちにとって何と良いモデルでしょうか。

次にパウロは、アカイアの首都コリントで始めた業を完了させるようテトスに勧めています(6節)。テトスはどのような業を始めたのでしょうか？マケドニアの人々と同じように捧げるようコリントの人々に奨励していたのです。

ここでパウロは、北方ギリシャのマケドニアの諸教会に対する神の恵みと南方ギリシャのアカヤの諸教会に対する神の恵みについて語り始めます。彼らの寛大さは、神の寛大さから出ているのです。

## 2

### 献金は霊的賜物（みたまの賜物）である

*Christian giving can be a charisma, that is a gift of the Spirit*

「あなたがたは、すべてのことに、すなわち、信仰にも、ことばにも、知識にも、あらゆる熱心にも、私たちから出てあなたがたの間にある愛にも富んでいるように、この恵みのわざにも富むようになってください。」

8 : 7

コリントの人々は、既に、信仰にも、ことばにも、知識にも、熱心にも、愛にも富んでいます。パウロは“捧げる恵み”についても富むように奨励しています。ローマ 12 : 8 でも、パウロは賜物のひとつとして“分け与える人は惜しまず与える”ことを挙げています。捧げる恵みは、霊的賜物なのです。

神からの様々な賜物は、量りに応じてすべての信者に授けられており、また、ある一部の人々には特別な量りに応じて賜物が与えられています。例えば、すべてのクリスチャンは福音を述べ伝えるために召されていますが、ある人々は説教者の賜物が与えられています。すべてのクリスチャンが、他の人々に配慮するよう召されていますが、ある人々は牧師に召されています。同じように、すべてのクリスチャンは寛大であるべきですが、“捧げる賜物”に特別に召されている人々もいます。経済的な富を委ねられている人は、その富を賢く管理する責任が特にあります。

## 3

### 献金はキリストの十字架によって もたらされるものである

*Christian giving is inspired by the cross of Christ*

「こうは言っても、私は命令するではありません。ただ、他の人々の熱心さをもって、あなたがた自身の愛の真実を確かめたいのです。あなたがたは、私たちの主イエスキリストの恵みを知っています。すなわち、主は喜んでおられたのに、あなたがたのために貧しくなられました。それは、あなたがたが、キリストの貧しさによって富む者となるためです。」 8 : 8~9

パウロはコリントの人々に対して、惜しみなく捧げることを命令していたわけではありません。そうやって対処するのではなく、むしろ、他の人々、特にキリストとの比較で彼らの愛がどれだけ真実なものかを確認しようとしています。なぜなら、彼らは“主イエスキリストの恵み”を知っていたからです。

ここで神の恵みについて更に考えてみましょう。神の恵みは私たちのうちに働いています（1節）。そして、キリストの恵みによって、キリストがそうされたのと同じように応答することが大切です（9節）。焦らなくても大丈夫です。パウロは、非常に厳しい基準について説明しています。貧しさに関する箇所が2つ、富に関する箇所が2つあります。私たちの貧しさゆえに、キリストはその富を捨てられました。それは、キリストの貧しさによって私たちが富む者とされるためです。パウロは、物質的な貧しさや富について述べているわけではありません。キリストの“貧しさ”は、(彼のもしくはキリストの)受肉と特に十字架の死にあらわされています。キリストにおける“富”とは、すべての祝福をもって私たちに救ってくださるということです。

捧げることで、私たちもまた十字架と、十字架上でキリストの死によって為されたすべての業を表すことになるのです。

それに比べて、地上の富はなんと取るに足らないものでしょうか。

## 4

### 献金はその人の持ち分に應じて なされるものである

*Christian giving is proportionate giving*

「この献金のことについて、私の意見を述べましょう。それはあなたがたの益となることだからです。あなたがたは、このことを昨年から、他に先んじて行っただけでなく、このことを他に先んじて願った人々です。ですから、今、それをし遂げなさい。喜んでしようと思っただからです、持っている物で、それをし遂げることができるはずで、もし熱意があるならば、持たない物によってではなく、持っている程度に應じて、それは受納されるのです。」 8：10～12

コリントの人々は、前年、一番先に献金を捧げただけでなく、一番先に捧げることを願っていました（10節）。よって、パウロは彼らが願ってはじめてこの業を成し遂げるように勧めています。この献金は、その人の持っている物で捧げられるべきです。なぜなら、クリスチャンの捧げ物は、その人の力量に見合ってなされるべきものだからです。熱心な思いがまず第一で、その思いがあり続ける限り、捧げる人が持つ物に應じて捧げられた物は神に受け入れられるものです。

“持っている物で”という表現は、使徒の働きで出てくる二つの箇所を連想させます。使徒の働き 11：29 に、アンテオケ教会は飢饉に襲われたユダヤに住んでいるクリスチャンたちに“それぞれの力に應じて”捧げ物を送りました。使徒の働き 2章と 4章では、エルサレムの教会の信徒たちは、“それぞれの必要に應じて”捧げていたと記されています。

ここである本の一節を思い起こすでしょうか？ *Cntique of the Gotha Programme* (1875) という著書でマルクスは“それぞれの力量に應じて”、また、“それぞれの必要に應じて”捧げるよう社会に求めました。マルクスは

使徒の働きの御言葉を知っていて、意識的に引用したのかもしれませんが。政治や経済がどんな状況であったにせよ、これらのことは聖書の指針として実践すべきです。献金はその人の力量に應じて為されるべきものだからです。

もちろん、マケドニアの人々たちのように、特別な状況下において、自分の所得からみて力量を超えるほどの捧げ物を犠牲を伴う捧げ物として必要とする場合もあるでしょう。しかし、ここで言う指針は、あくまでも基本として述べています。献金は、その人の所得から考えて、捧げられるべき物よりも少ないということはあるべきではありません。

## 5

### 献金は平等をもたらすものである

*Christian giving contributes to equality*

「私はこのことによって、他の人々には楽をさせ、あなたがたには苦勞をさせようとしているのではなく、平等を図っているのです。今あなたがたの余裕が彼らの欠乏を補うなら、彼らの余裕もまた、あなたがたの欠乏を補うことになるのです。こうして、平等になるのです。「多く集めた者も余るところがなく、少し集めた者も足りないところなかった。」と書いてあるとおりです。」 8:13~15

パウロは、この箇所では説明している通り、他の人々に楽をさせ、コリントの人々に苦勞をさせようとしていたわけではありません。なぜなら、それは単に、問題を生み出すことによって問題を解決しているだけであって、状況が反対になっているだけだからです。むしろ、“平等を図っているのです”(13節)。この当時は、コリントの人々の余裕が他の人々の欠乏を補い、後にその人々の余裕がコリントの人々の欠乏を補うことになるからです。“こうして平等になるのです”(14節)。パウロは、砂漠でのマナの供給の箇所を引用しています。神は全ての人々に十分なものを与えてくださいました。大家族は多く集めました。余るところがなく、小家族は少なく集めました。足りないところがありませんでした(15節)。パウロは、他の人々の欠乏ということと同時に富についても述べており、調整するように呼びかけています。つまり、欠乏を富によって補うということです。isotes というギリシャ語が使われていますが“平等”または“公平”という意味です。ここでパウロが言う“平等”とは何でしょうか。3つの側面が考えられます。

まず第一に、平等主義ではないということです。神のご計画は、まるで天の工場のようなところで大量に作られたかのように全ての人々が同じ報酬を得ること、同じ家具つきの同じ家に住むこと、同じ服を着て同じものを食べ

ることではありません！特徴のない画一性は聖書でいう創造の教えではありません。創造主である神は私たち人間をクローンとして増やしたのではないからです。勿論、皆、同じように価値と尊厳があり、神に似た者として平等に造られました。また、悪人にも善人にも差別なく雨を降らせ太陽の光を与えてくださいます。しかし、神は私たちを一人一人別の人格として造られました。体格、外見、気質、人格、能力などにおいて、多様性を与えられたのです。

第二に、教育を受ける機会が平等にあるということです。

クリスチャンはずっと文学や教育を推進する最前線に立ってきたと言えます。なぜなら、教育とは、実に、神に創造された潜在能力を引き出すということだからであり、そうすれば、全て神がご計画された通りになるからです。例えば、平等な教育というのは、全ての子供たちが大学に行くということではありません。大学の教育を通して恩恵を授かることができる子供たちは皆、その教育を受けることができるということです。全ての子供たちが平等に教育を受けられるべきです。

第三に、極論ではありますが、社会的な不平等に関して、平等を語るのは非常に難しいということです。タンザニアの前大統領の Julius Nyerere は、Arusha 宣言の中でこう語ったそうです。“誰も他の人の富から見て、自分の貧しさについて卑下しない、誰も他の人の貧しさから見て自分の富について恥じなくてもいい、そういった国を建て上げたい。”

同じようなジレンマが宣教師にも多くあります。自分が遣わされた場所で、現地の人々と全ての点において同じようにするべきなのか？あるいは、西洋の富をそのまま充実させ、生活スタイルを何も変えないくても良いのか？おそらく、いずれでもないのではないのでしょうか。Willowbank Report で、福音と文化について、恥を感じずに相互利益の観点をベースに自然な形で他の人々と仕えあうことができる生活基準を持つべきなのではないかとあります。別に言い換えるとすれば、経済的な理由で生活レベルの違いから、他の人の家を訪ねることや自分の家に人を招くことに恥を感じるのであれば、その時点で何か間違っています。不平等はあまりに大きすぎて、交わりを破壊してしまいます。様々な方向から見た平等の測り方が必要です。献金は、そういった観点から見ても、平等であるべきです。

## 6

### 献金は慎重に管理されるべきである

*Christian giving must be carefully supervised*

「私があなたがたのことを思うのと同じ熱心を、テトスの心にも与えてくださった神に感謝します。彼は私の勧めを受け入れ、非常な熱意をもって、自分から進んであなたがたのところに行こうとしています。また私たちは、テトスといっしょに、ひとりの兄弟を送ります。この人は、福音の働きによって、すべての教会で称賛されていますが、そればかりでなく、彼は、この恵みのわざに携わっている私たちに同伴するよう諸教会の任命を受けたのです。私たちがこの働きをしているのは、主ご自身の栄光のため、また、私たちの誠意を示すためにほかなりません。私たちは、この献金の取り扱いについて、だれからも非難されることがないように心がけています。それは、主の御前ばかりでなく、人の前でも公明正大なことを示そうと考えているからです。また、彼らといっしょに、もうひとりの兄弟を送ります。私たちがこの兄弟が多くのごことについて熱心であることも、しばしば認めることができました。彼らは今、あなたがたに深い信頼を寄せ、ますます熱心になっています。テトスについて言えば、彼は私の仲間で、あなたがたの間での私の同労者です。兄弟たちについて言えば、彼らは諸教会の使者、キリストの栄光です。ですから、あなたがたの愛と、私たちがあなたがたを誇りとしている証拠とを、諸教会の前で、彼らに示してほしいのです。」 8:16~24

お金を扱うことは危険の伴う働きです。パウロはそのことをよく理解していました。「この献金の取り扱いについて、だれからも非難されることがないように心がけています」(20節)、「それは、主の御前ばかりでなく、人の前でも公明正大なことを示そうと考えているからです。」と書いている通りです。正しいことをするというだけでなく、正しいことをしていると見られることを意識していたのです。

では、そのためにパウロはどのようなステップを踏んだのでしょうか？第一

に、お金に関することは自分ではなく、テトスに任せました(16節~17節)。そして、そのことに対して強い確信を持っていました(23節)。第二に、テトスに加えて、「すべての教会で称賛されている」ひとりの兄弟を送りました(18節)。第三に、この兄弟は“この恵みの業に携わっている私たちに同伴するよう諸教会の任命を受け”ていました(1節；第一コリント16:3)。エルサレムに献金を持ち運ぶ人は教会で信頼が置けると判断されて選ばれた人がする役目でした。

私たちがまた、起こりうる可能性のある非難に対して前もって警戒することが賢明です。献金で集められた金額を確認する時に複数の人がいるということ、教会の会計について定期的に報告書を教会員たちに配布するなどして、教会員に公にすることが大切です。教会生活にはそういった透明性が必要であり、そうすることによって会員たちが確信を持つことができます。

宣教団体は経理に関して賢く経験に富んだ視点を持つ委員会を立てることが非常に大切です。

そうすれば、支援者からの献金を上手く運用し、礼拝に有効的に用いることができます。

更に広い視点で考えれば、監査の方々や、チャリティー団体を通して捧げられるものを監督する政府の働きは、良い行いと適切な報告がなされており、それは感謝なことです。



## 7

### 献金は小さな思いやりのある 競い合いによって励まされる

*Christian giving can be stimulated by a little friendly competition*

「聖徒たちのためのこの奉仕については、いまさら、あなたがたに書き送る必要はないでしょう。私はあなたがたの熱意を知り、それについて、あなたがたのことをマケドニアの人々に誇って、アカヤでは昨年準備が進められていると言ったのです。こうして、あなたがたの熱心は、多くの人を奮起させました。私が兄弟たちを送ることにしたのは、このばあい、私たちがあなたがたについて誇ったことがむだにならず、私が言っていたとおりに準備してもらったためです。そうでないと、もしマケドニアの人が私と一緒にいって、準備ができていないのを見たら、あなたがたはもちろんです、私たちも、このことを確信していただけに、恥をかくことになるでしょう。そこで私は、兄弟たちに勧めて、先にそちらに行かせ、前に約束したあなたがたの贈り物を前もって用意していただくことが必要だと思いました。どうか、この献金を、惜しみながらするのではなく、好意に満ちた贈り物として用意しておいてください。」 9:1~5

パウロは、南方ギリシャの教会（例：コリント）の捧げる熱意と、その熱意によって北方の人々たちを奮起させたことについて、北方ギリシャの教会の人々（例：ピリピ人）に誇っています（2節）。そして、パウロは兄弟たちをコリントへ送り、コリントの人々について誇ったことが無駄にならず、パウロが言った通りに準備がされることを願っていました。

もし、マケドニアの人がパウロと一緒にいき、コリントの人々が準備できていないのを見たら、大きな恥をかくことになるからです。だからこそ、パウロはあらかじめ兄弟たちを送り、約束した贈り物を前もって用意するようにしたのです。献金を惜しみながらするのではなく、好意に満ちた贈り物として用意することができるためです。

初めに、パウロはコリントの人々の熱意について、マケドニアの人々に誇っています。それは、マケドニアの人々も熱意を持って捧げることができるためです。そして、コリントの人々に対して、マケドニアの人々が落胆しないように、熱意を持って捧げることを促しています。

マケドニアの人々とコリントの人々が熱心に捧げることに、お互いに良い刺激を与えるようにパウロが働きかけているのは非常に興味深いところです。競争は、特に捧げた人の名前や金額を公表するとすると、非常に危険です。しかし、周りの人の熱意を耳にすることによって、影響を受けて更に熱意をあつくすることができます。

ある教会では、役員会、あるいは長老たちが教会建設の計画について会衆の前に出て最初に誓い、挙げられた合計額が（個人の名前は出さずに）教会の献金日の前に公表されます。教会のリーダーたちがこのような多くの犠牲を伴う献金を必要とする計画に携わることは、教会員たちの信仰形成に良い影響を与えることになります。

## 収穫に見られる献金に対する考え方

*Christian giving resembles a harvest*

「私はこう考えます。少しだけ蒔く者は、少しだけ刈り取り、豊かに蒔く者は、豊かに刈り取ります。ひとりひとり、いやいやながらでなく、強いられてでもなく、心で決めたとおりにしなさい。神は喜んで与える人を愛してください。神はあなたがたを、常にすべてのことに満ち足りて、すべての良いわざにあふれる者とするために、あらゆる恵みをあふれるばかり与えることができる方です。「この人は散らして、貧しい人々に与えた。その義は永遠にとどまる。」と書いてあるとおりです。蒔く人に種と食べるパンを備えてくださる方は、あなたがたにも蒔く種を備え、それをふやし、あなたがたの義の身を増し加えてくださいます。あなたがたは、あらゆる点で豊かになって、惜しみなく与えるようになり、」 9:6~11a

収穫の例えは、献金について二つの指針を提示しています。

第一に、私たちは、自分が蒔いたものを刈り取るということです。少しだけ蒔く者は、少しだけ刈り取り、豊かに蒔く者は、豊かに刈り取ります(6節)。“蒔く”ということは、献金がどうということかを考えるときに想像しやすいイメージだと思います。では、私たちは何を“刈り取る”ことを期待すればいいのでしょうか？パウロの要点をあまり文字通りに解釈しない方が良いでしょう。多く捧げれば多く与えられるわけではありません。ひとりひとりが、心で決めたとおりに、いやいやながらでなく、強いられてでもなく、むしろ惜しみなくするべきです。なぜなら、神は喜んで与える人を愛してくださるからです(7節)。ここで“心で決めたとおりにしなさい”という箇所を見てみましょう。どの位捧げるべきかということについての信念と、慎重に考え、いつも喜びと感謝を持って捧げることの決意がここから伺えます。

パウロがコリントの教会に先に述べたこと、計画的な献金の勧め(第一コリント16:1~3)について、もう一度確認すると良いでしょう。あなた

がたはおのおの、いつも週の初めの日に、収入に応じて、手もとにそれをたくわえておきなさいとパウロは教えています。現代、私たちが教会の献金と宣教の献金の両方に銀行の自動送金を実行することと似ているでしょう。ここでも、“心で決めてする”ことの重要性を思われます。衝動的な思いに駆られて捧げる必要はあまりありません。時間をかけて、定着した確信を持てるかということが大切です。

このスピリットに従うとしたら、どのようなことが起こるのでしょうか？どのような収穫を刈り取ることを期待できるのでしょうか？答えは二倍です：(i) “神はあなたがたを、常にすべてのこと(物質的なことだけを意味しているわけではありません)に満ち足りて” (ii) “すべての良いわざにあふれる者”とされます。なぜなら、奉仕の機会が更に増えるからで(8節)。詩篇の筆者が述べているように、貧しい人々に与える結果は、永遠にとどまる義です(9節、詩篇112:9)。

第二に、刈り取りには二重の目的があるということです。食物を得るためと、更に蒔くことができるためです。収穫の神は、私たちの現在の空腹を和らげることを心配するのではなく、将来の供給にも心をかけて下さる方です。神は“食べるパン”(緊急の消化)と“蒔く人に種”(次の季節のために植えるため)の両方を与えて下さるのです。同じようにして、神は“蒔く種を備え、それをふやし、あなたがたの義の身を増し加えてくださいます。”(10節)。

これらの箇所は“元金”の概念が出てきた由来でもあります。つまり、献金が増やされることを神に期待するということです。ある人々は求めましたが、パウロが教えているのは“繁栄の福音”ではありません。勿論、神は“あなたがたは、あらゆる点で豊かになる”ことを約束していますが、それは、“惜しみなく与えるようになる”(11節)からとすぐに加えています。そして、更に捧げるようになるためです。富には惜しまないという考え方が伴うべきです。

## 9

### 献金における象徴的な意味

*Christian giving has symbolic significance*

---

クリスチャンの捧げ物、つまり献金には特別な意味が含まれています。

パウロはこのことについて非常にはっきりと述べています。ギリシャの教会の場合、献金は“キリストの福音の告白”(13節)のことを象徴しています。

パウロは、単なるお金の振込のことではなく、それがどういった意味を持つのかということを中心に思い描いていました。それは、地理的(ギリシャからユダまで)よりも、あるいは、経済的(富んでいる人から貧しい人まで)よりも重要でした。また、それは神学的(異邦人の信者からユダヤ人の信者)でした。なぜなら、ユダヤ系異邦人のキリストにおける結束の慎重かつ認識の強さの象徴だったからです。

確かに、この真実(ユダヤ人と異邦人も同じ条件でキリストの体に受け入れられており、共同の相続者、共同のメンバー、共同に約束にあずかる者とされています。)はパウロに明らかにされた“奥義”でした(例:エペソ3:1~9)。これは、パウロ特有の福音の本質でした。彼の一生、牢獄に入れられ、命をも捧げたのは、この真実のためでした。ここではヒントですが、ローマ15:25~28で念入りに取り組まれています。

ギリシャの教会の異邦人たちはユダヤにいる貧しいクリスチャンたちに捧げることを“喜び”としていました。“彼らは喜んで捧げていました”とパウロは繰り返しています。確かに、“その人々に対してはその義務があるのです。異邦人は霊的なことでは、その人々からもらいものをしたので(後に救い主が来られることで成就する)、物質的なものをもって彼らに奉仕すべきです”(ローマ15:27)。これはクリスチャンの交わりの重要な例であり宣言です。

同じように、献金をもって、私たちの神学を表すことができます。例えば、福音的な事業のために捧げるとき、福音は神の力による救いであるというこ

18 The Grace of the Giving

と、そして、その福音を全ての人が聞く権利があることの確信を表しています。経済成長のために寄付をするとき、男性も女性も、子供たちも、全ての人が神に似せて造られ、人間性を失うような環境で生きるべきではないという考えを表しています。教会の成長のために捧げるとき、教会が神の計画の中心であること、そして、神が教会の成熟を願っておられることを確信しているのです。

## 献金は神への感謝をもたらす

*Christian giving promotes thanksgiving to God*

「・・・それが私たちを通して、神への感謝を生み出すのです。なぜなら、この奉仕のわざは、聖徒たちの必要を十分に満たすばかりでなく、神への多くの感謝を通して、満ちあふれるようになるからです。このわざを証拠として、彼らは、あなたがたがキリストの福音の告白に対して意従順であり、彼らに、またすべての人々に惜しみなく与えていることを知って、神をあがめることでしょう。また彼らは、あなたがたのために祈るとき、あなたがたに与えられた絶大な神の恵みのゆえに、あなたがたを慕うようになるのです。ことばに表せないほどの賜物のゆえに、神に感謝します。」  
9:11b~15

パウロはこれら2章の最後の段落で4回に渡り、献金が最終的な結果として神への感謝と賛美を増すことに確信を持っていると述べています。これが霊的な捧げ物の本質です。

11節「・・・それが私たちを通して、神への感謝を生み出すのです」、12節「この奉仕のわざは、聖徒たちの必要を十分に満たすばかりでなく、神への多くの感謝を通して、満ちあふれるようになるからです」、13節「あなたがたがキリストの福音の告白に対して意従順であり、彼らに、またすべての人々に惜しみなく与えていることを知って、神をあがめることでしょう」、15節「ことばに表せないほどの賜物のゆえに、神に感謝します」。真の捧げ物は、捧げた人に対する感謝のみならず、神への感謝をもたらし、御子の救いという賜物にこの上なく示されている恵みに対するものという視点で捧げ物を見ることが出来ます。

## 結論

*To conclude*

お金の動きに関して、多くの取り扱いがあることは本当に驚くべきことです。三位一体の教え、つまり、父なる神の恵み、イエスキリストの十字架、そして聖霊による一致が与えられています。そして、キリストの弟子たちによる実践的な知恵からも学ぶことができます。霊的な真実と実践的な知恵の両方が、相互に作用しながら神によって導かれているのです。

世界中の人々を助けることによって神の栄光を表すことができるということは、いかに素晴らしい特権でしょうか。神が管理するように託されたお金をより手放すことが、神の栄光を表すことをもたらすのです。そして、神の栄光のために神への感謝を増すことこそが、私たちの最高の目的です。

これまでの学びが、私たちの捧げ物がより高い水準にされ、より心から、思慮深く、惜しまず捧げることを促すことを期待します。

私自身（この説教を始めに自分自身に語ったのですが）、献金について見直し、多く捧げるようになりました。皆さんも同じようにされることを強く願います。

聖書研究のためのテキスト

全3回

- 1 献金とは? コリント人への手紙 第二8章1~15節
- 2 献金の管理と励まし コリント人への手紙 第二8章16~9章5節
- 3 献金のもたらずもの コリント人への手紙 第二9章6~15節

ささげる恵み

The Grace of the Giving

聖書研究のためのテキスト

全3回

- 1 献金とは? コリント人への手紙 第二8章1~15節
- 2 献金の管理と励まし コリント人への手紙 第二8章16~9章5節
- 3 献金のもたらずもの コリント人への手紙 第二9章6~15節

# I

## 献金とは？

はじめに

あなたにとって献金とは何ですか。どんな印象を持っていますか。

「コリント人への手紙 第二」は、使徒パウロによってコリントの教会に宛てて書かれました。この手紙を書いた時、彼はマケドニアにいたようです。8章で、パウロはコリントの教会に対してエルサレムの貧しい信徒を助けるための献金を求めました。

### コリント人への手紙 第二 8章 1～15節

1. マケドニアの諸教会はどのような状況にあることがわかりますか。(1～2節)
2. マケドニアの諸教会がしたことは何ですか。また、パウロは彼らの行動のどんなところを強調していますか。(2～5節)
3. 6節でテトスが「あなたがたの間(コリントの教会)」で始めた「恵みのわざ」とは何ですか。また、それを「完了させる」とは具体的には何を意味していると思いますか。(6～7、10～11節)

4. パウロは何故、献金について「命令」ではなく(8節)、「意見」として(10節) 伝えたのだと思いますか。

5. 9節でパウロが示すキリストの姿は、「献金」とどのような関係がありますか。

6. 献金はどのような範囲で、何にに応じてささげることを求められていますか。また、それは何故ですか。(11～15節)

7. パウロは献金をどのようなものとして考えていると思いますか。

( )に言葉を当てはめて、献金の性質を説明して下さい。

4節 献金とは( )である。

5節 献金とは( )である。

13～14節 献金とは( )である。

### 適用

あなたは献金について何を教えられましたか。チャレンジを受けたことや決心したことがあれば分かち合ってみましょう。

## 献金の管理と励まし

### はじめに

あなたは教会や超教派団体の献金アピールを日頃どのように感じていますか。

コリント人への手紙 第二 8 章 1～15 節で、パウロはマケドニアの諸教会の模範的な献金を紹介した上で、コリントの教会に対してエルサレムの貧しい信徒を助けるための献金を求めました。そして、献金推進のために三人の兄弟をコリントの教会に推薦しました。

### コリント人への手紙 第二 8 章 16 節～9 章 5 節

1. テトスがコリントの教会に送り出された理由、彼に与えられた役目は何ですか。(8 章 6、16～17、23 節、9 章 3 節)
2. テトスと一緒に送り出される「ひとりの兄弟」(18 節)と「もう一人の兄弟」(22 節) はどのような人物ですか。また、彼らが「キリストの栄光」(23 節) であるとはどういうことを意味すると思いますか。(18～23 節)
3. 彼ら三人によって献金が推進されることは、パウロ達がどのような批判や誘惑を避けることになると思いますか。(20、21 節)

4. パウロは何故、主の御前だけでなく、人の前でも公明正大であることを示す必要があったのだと思いますか。

5. 推薦された三人のような人が派遣されたことを通して、献金をささげるコリントの教会はどのように感じたと思いますか。

6. パウロがコリントの教会の献金に対する熱意をマケドニアの人々に伝えた結果はどのようなものでしたか。(8 章 1～5 節、9 章 2 節)

7. パウロはコリントの教会の人々に対してどのように献金を励ましていますか。同時に彼が求めた献金とはどのようなものですか。(5 節)

### 適用

- a. 教会や宣教団体が神と人の前に公明正大であるために、必要なことは具体的にどんなことですか。そのためにあなたには何が出来ますか。

- b. あなたは教会や超教派団体のために、どうやって他の人に献金することを励ますことが出来るでしょうか。

### 3

## 献金のもたらすもの

### はじめに

献金はあなたに何をもたらしてくれましたか。もしくは、何をもたらしてくれると思いますか。

コリント人への手紙 第二 8 章 1 節～9 章 5 節で、パウロはコリントの教会に対してエルサレムの貧しい信徒を助けるための献金を求め、献金推進のために三人の兄弟を派遣することを伝えました。本日の個所でパウロは献金のもたらす祝福について語っています。

### コリント人への手紙 第二 9 章 6～15 節

1. 6 節の収穫の例えについて 7 節は説明しています。6 節の例えの言葉が 7 節のどの言葉に対応するかを考えて、下の表を記入して下さい。

6 節	7 節
蒔く	
刈り取る	
少しだけ	
豊かに	

2. 献金について私たちが求められている姿勢はどのようなことでしょうか。(6,7 節)

3. 神様が私たちに恵みを与えられるのは、どのような目的のためですか。また「恵み」とは聖書中においてどのような意味を持ちますか。(8,9 節)

4. 献金が「蒔く人」「受ける人」「神様」にもたらすものは何ですか。また何故、それをもたらすことができるのでしょうか。(10～12 節)

5. 献金はコリントの教会（聖書中では「あなたがた」とエルサレムの聖徒たち（聖書中では「聖徒」「彼ら」）の関係に対して、どのような結果をもたらすでしょうか。(12～14 節)

6. パウロが神様に感謝している「ことばに表わせないほどの賜物」とは何だと思いますか。あなたがそう思う理由も教えてください。(15 節)

### 適用

a. 献金が失うことではなく「蒔く」ことであることは、あなたにとってどのような意味がありますか。

b. あなたにとって与える対象であるエルサレムの聖徒たちとは誰ですか。

c. あなたは献金について何を教えられましたか。チャレンジを受けたことや決心したことがあれば分ち合ってみましょう。



## あとがき

第一歴代誌 29 章において、神様の栄光のために大きな神殿を建て上げようと捧げる者たちがいた中、ダビデ王は次のように祈りました。これは非常に適切な献金の理解です。

「主よ。偉大さと力と栄えと栄光と尊厳とはあなたのものです。天にあるもの地にあるものはみなそうです。」(11 節)

「私たちは、御手から出たものを捧げたにすぎません。」(14 節)。

私たちは、このテキストを通して、神様が私たちに委ねられた賜物をどのように用いるかについて学ぶことが出来ました。しかし知的な理解だけで終わることなく、私たちの生活の中で御言葉から教えられたことを実践することが大切です。

神様がその栄光のために与えてくださっている全てのものを、私たちがきちんと管理することができますように。

## ささげる恵み

The Grace of the Giving

初版 2011 年 2 月

著者 ジョン・ストット (10 の原則)

主事会 (聖書研究のためのテキスト)

翻訳 赤城 聖子

協力 浜松 ともみ

発行者 キリスト者学生会主事会

発行所 キリスト者学生会

〒101-0012

東京都千代田区神田駿河台 2-1 OCC ビル 3F

TEL. 03-3294-6916

FAX 03-3294-6050

e-mail office@kgk-japan.net